

東京の明日 吉田つとむの東京自治宣言

東京都の無駄をあぶり出す

東京都の財政の基本的見方

東京都の積立金である「財政調整基金」は、2020年3月の時点では、過去最大の9345億円まで増えていました。それが、新型コロナ感染に巻き込まれて以降、その1年後の2020年度末には2511億円、さらに、その後も相次いで新型コロナ対策のために基金を取り崩す結果、21年度末は21億円になる見通しとされています。議論ではこの縮減は致し方ないものと考えましょう。

それでは、東京都が持つ資産の中で売却できるものがあり、それを売却して財政投入すれば良いという話があります。ただし、それは庁舎であったり、学校であったり、外郭団体の使用物件であったりして、現実には東京都が手放すことは難しく、またすぐに売却できるものでもありません。



東京都はやっている無駄使い

都営バス：町田市には都営バスはありません。バスを利用する場合は、神奈中バスなどを利用しています。東京全域のバス路線を民営化すれば良いと思います。

シルバーパス：シルバーパスは町田市のような都県境になっている自治体住民には、使い勝手が悪くなっています。この際シルバーパスを全廃して、交通困難地域のローカルバスの拡充に努め、公平な交通施策に転換しましょう。

東京都の町内会支援事業：東京都は豊かな財政を背景に、個々の町内会の事業支援のために地域の底力発展事業助成などを行なっています。それは本来個々の自治体がやるべき業務であり、都職員を配置した一律のバラマキ施策になっています。



支持政党なしTOKYO都民代表

〒194-0011 町田市成瀬が丘1-14-12
サンホワイトE103-13

TEL.042-795-7361
FAX.042-795-2726

吉田つとむ



Mail : yoshidaben@gmail.com スマホサイト yoshidaben.jp

*支持政党なしtokyo 2021年6月下旬発行

支持政党なしTOKYO NEWS

吉田つとむ

良識ある保守主義、政党・業界・団体から完全に自立

前町田市議
3期連続トップ当選
第35代議長



ホームページ



ブログ

支持政党なしの声を生かす

吉田つとむ前町田市議（3期連続トップ当選）は、「オリンピックを中止しよう！」などの東京自治宣言を発表しています。

1年半を過ぎても新型コロナの脅威は次々と誕生する変異株の登場で収束を見せず、緊急事態宣言の延長や、まん延防止等重点措置の適用ばかりが継続しています。

その中でも、オリンピックを強行開催するという論理をまかり通そうと言う都政、国政にブレーキをかけ、「オリンピック変異株」の誕生の可能性を排除し、コロナワクチン接種優先に切り替える方針転換が必要です。アメリカや中国、欧州の経済復興のスピードに後れを取らない経済成長と働きやすい就業環境を確保することが必要です。

組織や団体に所属しない（支持政党なしの声）を体現することがなにより必要です。そのためには行政にコントロールをきかせる自立性が高く、強圧を跳ね返す力を発揮できる政治家でなければなりません。



元インターン生は次々と実社会で活躍しています

提唱 3つの東京自治宣言

1 東京オリンピックを中止

2 若者育成が最優先

3 東京は西に発展する

政治姿勢の特徴

政党・業界・団体から完全に自立
良識ある保守主義

850万回再生！

マルチメディアの双方向情報発信を続ける



YouTube



吉田つとむ発見動画チャンネル

都民代表 吉田つとむの原動力は市民の声

支持政党なし・都民代表といえば 吉田つとむ！



第35代町田市議会議長時代の写真

毅然とした態度を示す

元議長時代、可否同数の裁決

第35代議長を務めていた時期(2017年)、議員提出議案「森友学園」問題の徹底究明を求める意見書”の表決では、この議案では初めて可否同数(17×17、1名欠席)と言う結果となりました。議場にはどよめきが起きる中、議長の吉田つとむは、迷わず、この議案に賛成を表明し、議長裁決(任期中この1回のみ)を行いました。よって、この議案は可決となりました。



当時のインターン生が議長室を来訪

吉田つとむに聞いてみた！

子育てや高齢者に向けた政策・ビジョンばかり？



学生だけでなく大学教授と一緒に語る

若者には、政治家が述べる政策やビジョンは、子育てや高齢者を対象にしたものばかりと受け取られているそうです。しかし、それは本当だろうか？決して、若者が思った通りではなく、政党によって、あるいは個々の政治家で異なるといえるでしょう。

とりわけ、吉田つとむは政治家の一員であり、政党に所属することなく、12年間も政治活動を続けており、発想はオリジナルで思考し、発表しているものです。世代施策の項目では、若者育成が最優先。「就職氷河期・コロナ世代の安定就業を政策課題にし、中高年は若者を育成することに奉仕する」と述べています。この姿勢を崩すことはありません。

東北の水害地を激励

地震、津波被害の地には様々の場所に一人で何度も出かけましたが、2019年には、東北地方を襲った台風19号の被災地に訪れました。この時も現地には一人で出かけました。当地では、主要な道路は自衛隊の出勤によって、多くが仮復旧されて、通行可能になっていました。ただし、冬場の時期に雪が降るとその道が使用しづらいつらと思える箇所がいくつもありました。現地では、水害に見舞われた土木資材の金属加工の工場を訪れると、内部の清掃が行なわれていました。経営者が若いこともあって、現在では工場が全面的に再建され、以前に働いていた方々が元気に働かれていますとお伝えいただきました。



大災害にあった工場の片づけ中に訪問

不公平をただし、公平な政治を作る

吉田つとむは、政治は誰にでも公平にあることが原則と主張してきました。前の町田市長の時代に、ごみを減らすため、有料の指定ごみ袋制度を導入し、ごみの減量が図られました。今の市長になって、高齢者には無料で引き渡されるようになり、私は世代で異なるのは不公平だと何度も主張し、ほぼ全員の議員の支持を受け、世代で分け隔てがない制度に戻すことができました。一人の政治家であっても、道理に合えば政策が実現されることが証明できました。



行政職員から説明を受ける

インターン生の研修を最優先

若者世代の成長に一番関心があり、インターン生の体験機会日程には最優先で取り組んできました。とりわけ、企業の見学などでは訪問先の多大な協力も得て、学生の成長を見守ってきました。夏季や春季の休暇時期だけではなく、一般の週末や半日コースも積み重ねも取り入れてきました。ただし、新型コロナ期では夕方前には終わる日程を組んでいます。



ワーカーズコープ訪問面談

インキュベーション施設や国会の議長公邸の見学

インターン生の研修先では、意識的にできるだけ珍しい施設を訪ねたり、豊かな体験を持った人と会うように心がけています。
※写真は緑豊かな庭園を背景にした参議院議長公邸です。

